

年間指導計画表

教科・科目	地歴科・日本史A	単位数	2単位
		学科・学年・学級	普通科普通・2年・理型クラス 普通科創造表現コース・2年

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	我が国の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付けて総合的に考察させ、我が国の伝統と文化の特色についての認識を深めさせることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。
使用教科書・副教材等	①教科書：山川出版社『日本史A』 ②資料集：浜島書店『新詳日本史』 ③史料集：第一学習社『詳録新日本史史料集成』 ④学習ノート：山川出版社『詳説日本史ノート』

2 評価の観点等

観点	趣旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	日本の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追求するとともに、国際社会に主体的に生きる国家・社会を形成する日本国民としての責務を果たそうとする。	・授業態度 ・発問評価 ・課題提出 ・ノート提出	30%
b. 思考・判断・表現	日本の歴史から課題を見だし、文化の多様性・複合性や日本の特質を多面的・多角的に考察し、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	・授業態度 ・発問評価 ・課題提出 ・定期考査	20%
c. 技能	日本の歴史に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	・課題提出 ・ノート提出	10%
d. 知識・理解	世界の歴史についての基本的な事柄を地理的条件や世界の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身につけている。	・授業態度 ・発問評価 ・課題提出 ・ノート提出 ・定期考査	40%

3 学習計画

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
前期	4	5	○近代への胎動	近現代につながる日本の前近代の歴史を東アジアとの関わりから深める。	○	○	○	○
	5	7	○開国と明治維新	開国から明治維新に至るまでの過程について、国際環境の変化に着目して理解する。また、幕末の動乱における天皇を中心とする統一国家構想の芽生えから幕府の滅亡に至るまでの経過を社会・経済の変化と関わらせて理解する。	○	○		○
	6	8	○立憲国家の成立 1	明治新政府の諸制度の改革や富国強兵・殖産興業政策に着目して、明治初期の政治的変革と国家的統一過程を理解する。また、政府の強力な中央集権体制の志向のなか、自由民権運動の始まりから立憲国家の成立に至る間に、近代国家の基盤が形成されていく過程を考察する。	○	○		○
			<第1回考査>			○	○	○

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	a	b	c	d
前期	7	8	○立憲国家の成立 2	大日本帝国憲法の成立と帝国議会のあり方を理解する。欧米諸国と対等の地位に立つために国家的課題であった不平等条約の改正を行い、東アジアへの進出により欧米列強への仲間入りをめざした経過について考察する。また、日露戦争の勝利による欧米列強の仲間入りの経緯とその後の植民地支配の推進について、諸外国の動向と関連づけて考察する。	○	○	○	○
		8	○歴史の追究	夏季休業中を利用した主体的な学習活動により、地域の文化遺産についての関心を高め、文化財保護の重要性について認識を深める。	○		○	
	9	8	○立憲国家の成立 3	立憲体制成立後から第一次世界大戦に至るまでの国内政治の動きを、政党と藩閥の抗争などの視点から理解する。日清戦争前後にかけて資本主義国家の基礎が形成された過程を考察する。また、日露戦争後に資本主義国家が確立していくことを考察する。近代産業の発展に伴う社会問題・労働問題の発生や、国民生活の向上について考察する。	○	○		○
	10		〈第2回考査〉				○	○
後期	11	7	○第一次世界大戦と日本	第一次世界大戦前後の政治の動向及び対外政策の推移について、日本の中国進出の状況を踏まえて考察する。ワシントン体制に至る国際的協調体制の進展など国際環境の推移を、日本の立場に着目して考察する。社会運動の動向を理解するとともに、普選運動など政党政治の発展から二大政党による政党内閣制成立に至るまでの意義について理解する。	○	○	○	○
		7	○昭和の恐慌と満州事変	戦後恐慌から昭和恐慌に至る国内外の状況について、経済政策に加えて政治・経済の動揺にも着目する。社会主義運動の高揚と国家主義の台頭による軍部の政治進出を踏まえて、協調外交が挫折していく過程を考察する。日本の対外政策の推移について世界情勢や軍部の政治進出の拡大による政党内閣の崩壊過程も踏まえて考察する。	○	○		○
	12		〈第3回考査〉				○	○
後期	1	6	○第二次世界大戦と日本	日中戦争の勃発から太平洋戦争の突入に至る過程について、国民生活の変化や諸統制に着目して全体主義的な国家体制の進展を考察する。	○	○		○
		6	○占領下の日本	戦後の世界秩序を踏まえ、占領政策及び戦後の民主化政策とそれに伴う諸改革について、その経過と内容を理解するとともに、戦後政治の集大成となる日本国憲法制定の意義を理解する。	○	○		○
	2	5	○経済繁栄と保守長期政権	55年体制の成立から安定した保守政権となるまでの経過を理解する。また、高度経済成長を遂げる過程で日本社会が大きく変貌したことや、アメリカのアジア政策に協力することによって日本が国際的地位を高めたことを理解する。	○	○		○
	3	3	○現代の世界と日本	冷戦構造の崩壊による流動的な世界情勢が生まれる中で、21世紀の日本が直面している多くの課題があることについて理解を深める。	○	○	○	○
			〈第4回考査〉			○	○	○